

名桜大

(男子)

レキオ

(女子)

頂点

県総合ハンド

マスターズは 興南OB制す

ハンドボールの第52回県総合選手権最終日は24日、八重瀬町東風平運動公園体育館で各部決勝を行い、男子は名桜大が那覇西クラブを23-22の1点差で接戦を制して初優勝した。女子はレキオクラブが浦添商業高に22-16と快勝し2連覇。マスターズは興南OBが糸満OBに12-11と勝利して栄冠をつかんだ。

【男子】

▽決勝
名桜大 23(8-9) 15(8-9) 22 那覇西ク

【女子】

▽決勝
レキオ 22(9-7) 13(9-9) 16 浦添商高

マスターズ

▽決勝
興南OB 12(8-5) 4(6-5) 11 糸満OB

男子決勝 名桜大-那覇西ク 20点目のシュートを決める名桜大の田川雄一(八重瀬町東風平運動公園体育館) (又吉健次撮影)

走って初Vもぎ取る

ハイライト

走り続けた名桜大が、どちらに転ぶか分からないシーン

名桜大

1ゲームを制して県内大会初優勝を決めた。2連覇を狙う那覇西クラブとの決勝は、目まぐるしく攻守が入れ替わるスピードで、残り5秒、歓喜の瞬間が訪



元日本代表田場 決勝戦で4得点

興南OB優勝に貢献
○：元日本代表の田場裕也(43)が、興南OBチームで決勝戦に出場し4得点を挙げて優勝に貢献した。



田場裕也

「試合に出るのは10年ぶり。懐かしいですよ」と喜ぶ。昨年4月に本土から

れた。相手最後の攻撃で、右バックの園田巧が全速力で自陣へ戻ってパスを奪った。優勝を目指して12月1日、連日1時間半走り込んだ成果がここで出た。敵ゴールに試合球を投げると勝利を確信して「よっしゃっ」と叫んだ。

GKで主将の宮里泰生は「粘ろうと声を掛け合ったことで勝った。県内大会優勝の目標を達成できた」と喜ぶ。

金城は、5月の九州学生リーグへ弾みとなる勝利に「負けてはかりい福岡大に勝って優勝する」と新たな目標を掲げた。

(又吉健次)



男子初優勝の名桜大

帰郷。興南高OB新年会 笑う。で元気な姿を見せると、仲間が勝手に出場選手登録をして「たまされた」とつも以上の力を出したと

熱戦を展開した。攻守の約束事をつくってチームを勝利に導いたエースは「僕が持つトレーニングのノウハウを県内の選手にも伝えたい」と新たな夢を語った。



女子決勝 レキオクラブ-浦添商高 レキオの高良杏莉が5点目のシュートを決める

連覇 経験生かし主導権

レキオクラブ

会社員や主婦らでつくるレキオクラブは社会人らしい冷静な試合運びで、昨年の全国高校総体連覇Vの浦添商高を22-16で破った。0-3歳児を育てる母親もいて練習は週2日。中村みりのコーチは「体力勝負では高校生には勝てない」。大会では3戦全て高校生女子2連覇のレキオクラブ



チームと対戦した。GKの玉城日菜子は「体力的にきつかっただけに優勝はうれしい」と笑顔。主将の伊波奈津美は「練習してきたことに間違いはないと証明できた」と喜んだ。

まり大混乱した。抽選は初で、周辺の路上には人があふ発生した。並んだ全員に配布するとして打ち切った。集まった声は「話が違う」と怒りの声午前11時の段階で行列は、JR広島駅の駅員や近業員も整理に追われた。